

〔出席委員〕 松本典子、西坂千代子、吉田知子、西田里沙、福田美紀、山岡重隆、村岡亜樹、
新川裕二、永田彰寿、岡野勝義、小谷次雄、山下千之、笠田直樹 (敬称略)

1 開会	
司会	(開会の宣言)
①開会挨拶、委嘱状交付	
教育長	<p>お忙しい中ありがとうございました。平成26年度の第2回学校教育審議会を開催することになりました。今回新たに委員さんを迎えることになりました。本来なら手渡しをするところですが、大変失礼で申し訳ございませんが、委嘱状の方は机の上に配布させていただきました。また、男女共同参画という視点から、できるだけ女性を目標の4割に近づけようということで、無理を申し上げたところもあると思いますがどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>倉吉市の学校教育につきましては、教育振興基本計画に基づいて実施しているところでございます。本年度は土曜授業を進めております。鳥取県の中でも先頭を切って進めています。だいたい趣旨の通り実施できているのではないかと思います。また、市政60周年記念ということで、くらし風土記を作成いたしました。中学校の先生方に中学生が学べるように作っていただきました。さらに、本年度の大きな動きとして、現振興基本計画が27年度で終了します。28年度から第2次振興基本計画がスタートすることになります。これについても、皆様方のお力をお借りすることになります。どうぞよろしくお願いいたします。もう一つ大きな案件は、倉吉市の学校の適正配置です。草案を出して2年経ちました。そろそろ風呂敷を包む作業をしたいと思います。小学校のPTA連合会でも話を進めていただいているところです。時間がかかる問題ですが、この審議会で議論の推移を見ていただきながら、ご意見を伺いたいと思います。いじめ問題については、いじめ防止対策推進法に基づいて倉吉市でも条例を設置しました。どうぞ慎重審議よろしくお願いいたします。</p>
全員順番に	自己紹介
②会長、職務代理選出	
司会	審議会条例を使って会の主旨説明
司会	会長を選出する必要がありますがどのように決めたらよいでしょうか。
委員	事務局案はどうですか。
司会	会長を小谷委員にお願いしたいと思います。
	(拍手をもって承認)
司会	職務代理も事務局案を示させていただいてよろしいでしょうか。
司会	職務代理を松本委員にお願いしたいと思います。
	(拍手をもって承認)
司会	資料確認・会の時間の予定確認
2 事務局より	
事務局	資料に沿って説明
3 協議	
会長	ひき続きまとめ役をとということですが、皆様のご協力でもよろしくお願いいたしますと思います。非常にたくさん内容について丁寧に説明がありました。まず、協議(1)についていかがでしょうか。
委員	最近、何校か中学校から職場体験の案内が来ているのですが、施策の中のものとは別のものと考えたらよいのですか。
事務局	この計画の中ではP3の4の2にある「地域の人・もの・ことがらに触れる教育活動の推進」にあたると思います。
教育長	ずっと今までもやってきていますので、新たに計画に入れているということではありません。
委員	全部の学校がやっているのですか。

教育長	小学校はやっていません。中学校の2年生ですべてやっています。小学校の方もぼちぼちやり始めかけるところもあるかもしれませんね。
事務局	学校教育関係要覧の中で、P9にあげています「豊かな心とたくましい体の育成」の中の「特別活動・キャリア教育の充実」で、⑥キャリア教育の推進（職業体験、中学生の職場体験学習）で位置づけて実施しているところです。
委員	今年になってから急に、各中学校のPTAの方から依頼が多くなってきたので、今年になって急に市として力を入れ始めたのかなと思っていたところです。
委員	東中に関しては、昨年度までは職場体験学習をしていませんでした。今年から3日間の職場体験をすることに決まりました。もし、増えたということであれば、東中関係がお願いしたものだと考えます。特に成徳地区、上灘地区が多いのではないかと思います。
委員	うちではずっと前からやっています。
委員	高校はやっているイメージがあるんですけども。中学校の別の区域の方は何校か引き受けているんですけど、倉吉の方は引き受けていなくて…。
教育長	PR不足だったのでしょうか。「職場体験実施中」というのぼり旗をたてましょうか。
委員	一番最初に行ったのは久米中学校で、今から15～16年前でした。
会長	学校が荒れた時代から、これで立ち直った学校が結構あったようです。
教育長	本当に貴重な体験でありがたいです。体験して子どもが変わってきたというのを聞いたことはありませんか。
委員	うちの子は消防署に行かせてもらったんですが、いろいろ中を見せてもらったことは大きかったです。裏側を見せてもらえるのは貴重な体験でした。
会長	その他にありますか。
委員	不登校の数は増えていますか。
事務局	一進一退というような状況があります。年間欠席が30日以上の子童生徒の中で、病気・経済的な理由・不登校・その他というような仕分けをしております。病気・経済的な理由・その他でもない、行きたくても行けない児童生徒を不登校とします。しかし、倉吉市の場合は、どんな理由であれ年間200日のうち30日休めば、翌年どういう状況であれフォローしていかなければならないという立場に立っております。そういうことを全部含めた長期欠席30日以上という数字でいけば、21年度から過去5年で、小学校が38, 33, 30, 38, 28、中学校が72, 71, 73, 54, 74、小中全体で110, 104, 103, 92, 102です。倉吉市全体で100人前後いるという状況です。
教育長	付け加えますと、今年の中学校2年生が突出しています。小学校のときも多くて、小学校が増えたなどと思ったらそこが山で、これが卒業して中学校に行ったら小学校が落ちて中学校が増えました。中学校の2年生がなぜか突出しています。
会長	それは学校が集中しているのですか。
教育長	大規模校は多いです。幸い、中部子ども支援センターといって、学校に行けない子どもたちを支援する施設があります。指導員さんを中心としながら体験学習を中心に取り組んでいます。2年前に福庭に新しく改築して整備しました。以前は現在の河北中学校（旧産高跡地）にあったのですが、それがどうしても移動しなければならぬということで引っ越しました。素敵な環境になりました。それよりもまずそこに行けない子どもを支援しなければいけないと思っています。
会長	そこに行っている子は不登校の中に入るわけですか。
教育長	入ります。あそこに行っても欠席です。出席扱いとすることはできますが、正式には欠席ですので30日以上の中に入ります。
委員	あそこに行ける子はまだいいですけど…。例えば保護者の送り迎えが無理でなかなか行けない状態の子もいるし、あそこが合わないという子もいるし…。
委員	今、小中連携の問題も出てきているのですが、保幼小のことが少しずつ大事になっていると思います。不登園でずっと園に来なかった子が小学校に来ているのですが、少しずつ改善してきています。今後、保幼小の連携に手を入れて、不登校の問題や障がいのある子についても関与していく必要があると思います。

会長	幼稚園、保育園で不登園というのがあるんですね。
委員	お母さんが精神的にしんどくて、子どもが行きたいと思っても連れていけない家庭もありますし、何年間か通う中でどうしても子どもが行きしぶりをする時期があります。そこで切らないとずるずるいってしまいます。保育園は保護者と毎日会え、直接話ができるので伝えるようにしているところです。
委員	近年、親が怖いという子が非常に多いです。親に何か伝わると怒られると言いい、先生以上に怖がっています。何かあって保護者に伝えるときでも、伝え方に気をつけて子どもへの関わり方を丁寧に教えないと、家で頭ごなしに怒られて逆効果でよけいに悪くなるケースが結構増えています。小学校の中学年ぐらいまではまだいいのですが、高学年になって体が大きくなると親子げんかも相当ひどくなり、保護者も困ってしまうケースもあります。親の幼児期の関わり方がうまくいかなかったので、子どもに気になる行動がどんどん増えてしまう場合もあります。近年、支援の必要な保護者が増えたと感じます。細かく丁寧に具体的に手立てを伝えることが必要になってきています。子どもが家庭で痛められるといじめの問題にも繋がってきます。虐待の悪い連鎖がどんどん大きくなってしまいました。
会長	保護者研修はどこがやるのですか。
教育長	P T Aに担うというかんじですね。生涯学習の方で取り組むか…。
会長	P T A担当は学校教育なので、それはちょっとおかしいのではないですか。
委員	P T Aは自分のところに問題があればそれなりに動くのですが、自分のところに問題がないと認識していれば動かないです。今の中学2年生が不登校が多いという問題は、小学校のP T A会長をしていたときに感じていました。その学校は保護者をまとめにくいので、子どもたちもまとめにくいと聞きました。右向け右と言ったら子どもたちは四方八方向いていたと。そういう学年はちょっとしたトラブルで休んでしまいます。じゃあ保護者を指導できかといったら、してもら必要はないという感じで役員会でけられてしまう。結局、人権教育に絡めて積み重ねていくしかないのでしょうか。自分のところはそこまで深刻な問題は今のところ出ていないので助かっていますが、ある学校では悩んでいる会長もいると聞いています。
会長	保護者の研修がすき間になっているように感じます。
委員	付け加えさせていただくと、P T A会長も世代が変わってしまい、何とかしようというP T A会長ではなくて、無理矢理させられるP T A会長も結構います。そういう人は、とりえず1年間無難にという意識で、事なかれ主義に走る傾向が若干あるかもしれません。
委員	各地区の教育を考える会に、保護者がどれくらい参加しておられるのでしょうか。地域は子育てを支援していこうと頑張ってますが、地域の行事等に保護者の参画は少ない状況です。子どもへのつながりもそこに出てくるのかなと思います。
教育長	そういう点では、小鴨地区は小学校や中学校のP T Aを経験された方が、地域の担い手になるという循環がうまくいっている感じがします。モデルケースとして文部大臣表彰を受けられたというのはそういう事でしょう。そういう取り組みを広げていかねばと感じます。望ましい形だと思っています。やれやれP T Aが終わったというタイプの方がいるのかなという感じがします。
会長	次に適正配置についていかがですか。
教育長	数字の説明をさせていただきます。平成10年～25年の間に児童が1000人減ってますね。26年～32年というのは0歳児までをカウントした数字です。ここまでは生まれている子どもです。個別に見てみれば、成徳小が100人を切ってしまうことになります。明倫小と成徳小は今は同じ数ですが、6年後はこういう状況です。灘手小は30人台になります。北谷小、高城小はちょっと持ち直す感じですが。小鴨小が一時期433人という数字でドキッとしたんですけど

	ど、増え方が止まった感じです。上小鴨小が90人を維持していたのですが、60人台になってしまいます。関金小も100人を割ってきます。山守小は現状維持といった状況です。ここまでは子どもが生まれていますので読める数です。ここから先はまたどうなるかなといったところです。そういうことを含めた上で議論をお願いします。
会長	文部科学省もすごいことを言っていましたね。
教育長	ニュースに出したのはどうも文部科学省ではなく総務省か財務省らしいです。文科省は出していないですね。財務省の方はとにかくやらせたい。
会長	お金の問題と絡めると反発は多いですね。
教育長	市長と教育委員との会でもそういう話が出てまして、ちょっとやりにくいなあと。
会長	児童生徒の推計数は、信頼できるだろうかという地域の声がありますが…。
委員	私は統合には賛成の方だけど、地域の関係がどうかと思って見てます。地域としては、統合はしなければならないという人は多いが、問題はその中身です。通学路の問題とか、どちらの学校に行くかとか…。
委員	明倫の場合は、どちらの中学校に行くかということもありますね。
委員	いろいろな条件はあると思います。例えば、場所を明倫小の方にするのならば、東中に進学するという条件を受けなければならない状態になってくるかもしれません。あまりどっちに学校が残るかは、言葉に出すと感情が出てくるので今は腹に納めています。しかし、将来的には成徳小・明倫小を統合して一つにした方がいいと思います。やはり1クラス20人くらいは必要かと思います。学校対抗の大会に、選手が集まらなくて出場できないと、学校批判につながってきます。学校間の格差を無くした方がいいと思います。
教育長	学校教育審議会の中で、たたき台として1つの原案をだしてもらったことは、すごく値打ちのあることだと思います。その時は、財政面を抜きにして教育論で考えていただきました。草案に関しては、それをベースにして財政面も考慮して教育委員会として提案を出しました。昨年度と違ってきているのは、成徳小と明倫小がそれぞれの代表を出して協議し、また山守小と関金小も協議したことです。北谷と高城も話をし、北谷・高城よりももっと広い枠で社と一緒に話をした方がいいのではないかという意見も出ました。
委員	それが最近ちょっと雲行きがおかしいです。草案以来情報がいっさい出ないものですから、保護者の方もやきもきしているし、地元の方で反対運動の準備委員会が起ころうとしています。今、中学校と小学校の高学年の保護者は、はっきり言ってこの問題に関心ないです。関心があるのは保育園と小学校低学年の保護者です。そういう人達は、本当に久米中に一貫校が出来るのか不安に思っています。具体案を出してあげないと、いいのかどうかも判断できません。保護者も地域も情報不足です。適正配置の説明会に1回も出てない方が、反対派になっている状況ですので、そういう人達にも情報を出してあげないと。 3年前に、私はある保護者から「教育委員会っていいよ。子どもが〇〇のスポーツしたいから久米中以外の学校に行きたいと言ったらすぐ認めてくれたよ。しかも、その学校に行って目当ての部活には入部していないのに、通学してはいけないとは言われていないよ。」という話を聞きました。それはおかしいと言いましたが、そうやって大規模校に行きたいという子どももいます。逆に、小規模校を好む子どももいます。不登校の子で1年ほど学校に行っていなかった子が、高城に半年通うことによって学校に行きだしたという例もあります。小規模校に行ってみたいなという子の編入を、もっと簡単に出来るようにしてほしいです。 統廃合に関しては、HPや市報に載っているかもしれませんが、90%の人は見えていない状況です。以前、差別落書きについての啓発のちらしを市報に入れたことがありましたが、百何十人おられる中で、見た人を尋ねてみたら2、3人しかいませんでした。市民は結構見えていないので、情報をどうやって伝えていくかが

	重要になってくると思います。
委員	<p>学校統合については、私も湯梨浜町で関わりました。「子どもたちにとって一番ベストな教育は何か」という根幹を外してはいけないと思います。財政面でのごことが出てくると、地域住民は自分の子どもの教育に対する不安を持ちます。あくまでもどういう教育がベストなのかが大事です。財政面や地域感情で統廃合問題を考えると、最終的に一番迷惑を被るのは子どもたちです。通学路についても矛盾点はないのか。例えば、金森町から西中に通う子と、社から東中に通う子とが土手ですれ違いますが、金森町の子は距離からいって東中の方が近いです。社の子は西中の方が近いです。何か矛盾しているんです。同じ土手の通学路を反対側に行っている実態があります。今の校区割でそういう矛盾を解消できるのかなど、誰もがはっきり分かるようなことを示していくことも必要だと思いました。琴浦町は今年小学校が統合しました。保護者は統合賛成なんです。地域に古くからおられる方が反対なんです。ですけど将来のことを考えて、あまり強い反対をせずに、これからの子どもを育てる若い世代が中心になって動いて割とスムーズいきました。3つの小学校が1つになったらどうなるんだろうという不安がありました。しかし、それぞれが緊張感を持って逆にいい方向に学校が固まりました。今までは、少人数で固定した人間関係の中で、いろんな悩みを持って動けなかった子どもが、統合することで人間関係がリセットできいい面が出てきたようです。地域住民としては、統合したことについての不満は聞かれていません。湯梨浜町では、中学校の統合については特に慎重に進められました。最終的に町長・教育長の判断で、一番通りやすい場所で、しかもどういう施設がベストなのかということで提案がされています。</p>
会長	<p>答申をつくる段階においても、子どもたちにとってどうなのかというのが委員さんの根本にありました。その後教育委員会の方が草案を出されて、今ありましたように保護者もいいと思っても地域の中では言いにくいということもあるようです。そこが乗り越えられたら大丈夫だろうと思います。ちなみに、鳥取市は小規模校に転校できる制度にできています。学校の半分が市の中心部から来ているという学校もあるようです。小規模校がいいとって転校してきているそうです。いろいろやり方はあるんでしょう。委員としては成り行きを見るしかありません。今後も教育委員会から情報を流してもらって状況を見ていきましょう。</p>
教育長	<p>推進は事務局・市役所でやっていかなければなりません。またご意見を求めることはあります。</p>
会長	<p>今後こういう意見を聞きましたよということがあれば、教育委員会の方に教えてあげるといいと思います。あせるなどという意見は多いですね。</p>
教育長	<p>学校の選択制度を入れたらどうかということもあったのですが、市全体でやろうという議論は出てません。それよりも、今の地域をきちっとしておきたいという考え方が多いです。現在でも特段の理由がある場合は校区外通学を認めています。そこをもう少しゆるやかにしてほしいという思いはあるのかもしれませんが。</p>
会長	<p>(3)の青少年問題対策協議会についてです。</p>
教育長	<p>あんまりこれが活躍しないようにしたいと思います。</p>
委員	<p>人権教育や道徳教育や社会教育との関連を持ちながら、予防対策をしっかりしてほしいと思います。</p>
教育長	<p>学校の中にはひやっとする事例はあります。</p>
会長	<p>今年になっていじめの報告はあがっていますか。</p>
教育長	<p>あがっています。</p>
会長	<p>どこまでが重大かどうかは難しいところだが…。</p>
教育長	<p>保護者の方とやりとりしているところもありますし、地域学校委員会に相談しているものもあります。いつ何時に実際にこれが動かなければいけないときがくるかもしれません。</p>
委員	<p>この対策協議会はもう設置はされたのですか。</p>

教育長	委員の委嘱もだいたいできましたので、8月25日に第1回を立ち上げる予定にしています。
委員	子どもたちの「いじめ」という感覚が、ちょっとした「茶化し」や「ひやかし」という感覚です。やられたり言われた方はとても傷ついているという状況があっても、それをあまり悪いという感覚を持たない子どもが増えています。以前「学校で殴ってやった。」と言ってきた子がいて、殴られた子が不登校になったことがありました。その時に、「それは人権侵害だよ。あなたが学校に行けないようにしたということは、相手の教育を受ける権利を奪ったということだからね。」と言ったら「はっ！」と驚いた様子で、「謝ってくるわ。」と言ったことがありました。あんまり重大に捉えていないことが多いです。そのあたりをしっかり伝えていかなければと思います。
委員	同じ言葉でもメールとか文字になった方がきつい印象になります。ネットとかウェブの問題が見えにくくて心配しています。その辺の対策につながると思います。
委員	絵文字が使っていないだけで、やられたという感じがあるみたいです。絵文字の量がどのくらいあるかとか。
教育長	ネットあるいはラインに関する報告が結構上がってきています。先生方の研修にもこういう問題を入れてみようかなと考えています。
委員	中学校だけでなく、今小学校にもあります。聞いた話では、前の日にラインをやっている、終われないから2時3時までやっていたそうです。小学生が2時3時まで起きていたら、次の日起きられるわけがないから休んでしまう。私の知っている中学生も同じ理由で月に1、2回は休みます。年に20日くらいは休んでいます。その子の父親が「止めとけ」と言うんですが、ひどいときは4時頃までやっている。結局、自分からはおられないというのが理由です。
教育長	青少年育成協議会の時に、例えばそういうのは9時までにしよとか、そういう申し合わせをしたらどうかという提案があって動きかけている状況です。PTAにも相談しながらやりたいと思います。
委員	保護者が、「子どもたちがネットやラインをしている内容を見てもいいですか。」という質問をよくされます。「20才までは指導監督する責任があるんですからのぞいてください。」というのですが、「子どものプライバシーの侵害になる。」と言われます。しかし現状は、県外の人と、しかもすごい数の人とつながっていたりします。しかもそれを友達だと思っています。でもそれを親は知らないのです。
委員	聞いていたら苦しくなったり、そうは言ってもまだまだそのケースまでは至らないとか思ったりしています。大規模校の悩みとは全部はそぐわない部分がありますが、やはり中学生は携帯を持っている子が多いと聞いています。1クラスしかない学校では、それに入れなかったらどうなるだろうという不安もあります。問題が起こったら親同士でストップをかけようという話も聞いています。親としては条例でもいいから何かで止めてほしいです。やまらない、守れないならそれもあかなと思います。
委員	途中話を聞いていて怖いなと思いました。自分の子が小学校に上がっていくときに、そういうことに直面していくのかなと思うと、自分の意見を持っていきたいと思いました。
会長	次に土曜授業についてはどうですか。
委員	小学校はほとんどもう計画が出来上がっています。校長会で情報を集めて、ふるさと学習を入れながら3回分組んでいこうと思います。
委員	中学校では、各学校で年間の計画を立てて取り組んでいます。内容としては、「くらし風土記」に関わって地域の有識者の方をお呼びして話を聞いたり、地域探検やインタビューをしたり体験学習をしています。各学校がそれぞれ独自の活動をしています。基本となるのが「倉吉を再発見する」「郷土に愛着や誇りを持つ子ども達をどのように育てるか」という視点で進めています。例えば東中で

	は第1回目は図書館長さん、第2回目は博物館長さんをお願いしました。第3回目は総合政策課の方に依頼しています。
会長	生徒の反応はどうか。
委員	正直言うと最初1年生の中には、「何で土曜日に勉強しにこないけんか」と言っていました。しかし、授業を受けてそれなりに感想は持ったようです。歴史が好きな子は「この授業は良かったな」と言って、授業が終わってからも来られた方に食いついて話をしたりして興味を深めていました。全ての子に同じように効果があるわけではないですが。
委員	「くらよし風土記」は、すごいいいものだと思います。娘は勉強する前に卒業してしまったんですが、奈良県は「奈良学」という教科があって、通知表にも「奈良科」があるとのこと。すごいいい取り組みだと思ったので、是非倉吉も広がって深まればいいと思います。
教育長	実はこれ100項目あるのですが、それぞれのテスト問題が作ってあるんです。
会長	(テストは) あんまりせんがええな。
委員	おもしろがって勉強できれば。
委員	ネットやラインのことをずっと教育委員の時に一生懸命やってたんですけど、是非取り組んでいただきたいです。条例をつくったとしても、持ち運びができるし音も消せます。親の方が先に寝てしまって、子どもはいつまでもできます。全市で取り組むことはとても大切であると思いますが、同時に難しいことでもあります。しかし何とかしないと。わが子が関わりだしてから10数年経過しているのですが、遅々として進まない状況です。ネットも今、グロ画像っていうのがあります。首をつついたり手首を切っていたり、ものすごいことになっています。知らぬは親ばかりなりなので。
会長	もう一つ小中連携の問題がありますけども。
教育長	こういった形を模索しつつあるということです。
会長	小中一貫と小中連携がありますが、倉吉市は小中連携の方ですよ。鳥取県の動きはどっちの方にいますか。
事務局	湖南とか若桜とか一貫校をつくっていますね。倉吉市は教育課程はそれぞれで持ちながら連携していくという形です。
会長	意見交換という形になってしまいましたが、以上で終わりたいと思います。
教育長	本当にありがとうございました。
4 閉会	